

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2019)94(5) October 2019

GSJ コミュニケーションズ

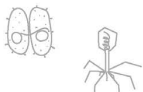
PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会

<https://gsj3.org>

	目次	頁
	2019年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い	3
	日本遺伝学会第92回大会へのお誘い 荒木喜美	4
	日本遺伝学会第92回大会のご案内	5
	第1回日本遺伝学会春季分科会のご報告 平田たつみ	6
	第2回日本遺伝学会春季分科会 「遺伝学のパラダイムシフトを目指して」のご案内	7
	総会次第	8
	1) 会員数	8
	2) 2019年度役員名簿	9
	3) 2018年度決算報告書（2018年1月～2019年3月）	9
	4) 2020年度予算案	10
	5) 2019年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞	10
	6) 協力委員会	10
	7) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール	11
	8) 開催地一覧	12
	2019年度日本遺伝学会第1回幹事会／評議員会議事録	13
	2019年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議議事概要	18
	日本遺伝学会第91回大会総会議事録	21
	日本遺伝学会第91回大会（福井大会）を終えて 村井耕二・沖 昌也	22
	福井大会の様子	23
	2019年度ナイトゼミナールの報告	24
	第18回遺伝学談話会報告	26
	2019年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書	27
	2019年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書	31
	本会記事	
	会員異動	34

2019年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い

平素より皆様には日本遺伝学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

2019年度日本遺伝学会年会費を未納の方は下記郵便振替口座または、クレジットカード払いにてご納入下さい。

なお、年会費のご納入につきましては、当学会 HP (<https://gsj3.org>) の入退会・年会費の会費納入記録をお確かめいただきますようお願い致します。

普通会員	10,000円
学生会員 ^(注1*)	3,000円（学生会員は初年度会費は免除）
シニア普通会員	6,000円
シニア永年会員	初回のみ 30,000円，以降の年会費は免除
教育会員	2,000円

（注1*）学部学生と大学院生が対象です。郵便振込の場合、振替用紙の通信欄に指導教員のお名前をご記入ください。入会して最初の払い込み後に、在学証明書を FAX，あるいは電子メールの添付ファイルにて事務局までお送りください。上記の手続きが完了した場合のみ、初年度会費が免除されます。

●郵便振替の場合

口座名義 日本遺伝学会

口座番号 00890-1-217316

●他の金融機関（ATM）から、ゆうちょ銀行の口座へ振込・振替をされる場合

***** 他金融機関からの振替口座番号 *****

・店 名 ○八九（ゼロハチキュウ）

・預金種目 当座預金

・口座番号 0217316

*お手数料に440円かかります。

日本遺伝学会第92回大会へのお誘い

日本遺伝学会第92回大会 大会委員長 荒木 喜美
(熊本大学 生命資源研究・支援センター)

日本遺伝学会第92回大会を、2020年（令和2年）9月16日（水）から18日（金）まで、くまもと県民交流館パレアにおいて開催することになりました。現在、学会本部の支援を受けて、大会開催に向けて準備を進めております。

これまでの大会と同様、本大会でも一般講演は口頭発表を主としておりますが、大学学部生・大学院修士を対象としたポスター発表を、今大会でも行います。参加者全員による投票を行い、翌日の懇親会では、ポスター賞の表彰を行う予定ですので、若手の皆さんふるってご参加くださいようお願いいたします。また、国際シンポジウムは遺伝学会100周年記念として、五條堀先生に世話人をお願いしております。さらに、通常のワークショップに加え、シニア会員企画による、長年の経験や立場の異なる視点から見たアドバイスなどを若い会員に伝えるワークショップも行う予定で、このシニアワークショップの後は、引き続き懇親会へと流れる企画となっています。総会は大会最終日に行い、そこで本大会のBP賞の発表と授賞式も行う予定ですので、多くの会員にご参加いただきたいと思います。大会最終日翌日の9月19日（土）には、熊本大学医学部のある本荘キャンパスの山崎記念館において、最近注目を集めているハダカデバネズミやクマムシなど、「すごい」生物を用いた研究を取り上げ、「ヒトを超える!? スーパー生物のまうごつ楽しかぁ遺伝学」と題した公開市民講座を開催いたします。一般市民はもとより、中学生・高校生や教員の皆さんにも多数参加して頂きたいと思っております。

会場のくまもと県民交流館パレアの1階には「くまモンスクエア」があり、繁華街中心部に立地しているため、飲屋街も近く、非常に便利なところです。会場（9階10階）からは熊本地震からの修復が進む熊本城がよく見えます。熊本県内各地を結ぶバスターミナルもすぐ近くですので、大会の前後に阿蘇山や天草のイルカウォッチングなど熊本の魅力を堪能していただければと思っております。宿泊予約をされる際には、熊本駅近くではなく、下通り周辺（熊本城や熊本桜町バスターミナルのある中心部）近くに宿を取られることをお勧めします。是非、学会員の皆様に多数おいでいただき、盛大な大会となりますことを切に願っております。

なお、今後、大会ホームページ（<http://gsj92.com>）で最新の情報を順次掲載いたしますのでご覧ください。

日本遺伝学会 第92回大会のご案内

日 時

2020年 9 月16日(水)～18日(金)

(19日(土)に市民公開講座を開催)

場 所

くまもと県民交流館パレア

大会委員長

荒木喜美

(熊本大学 生命資源研究・支援センター)

皆様のご参加をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

第1回日本遺伝学会春季分科会のご報告

2019年3月8日に、国立遺伝学研究所にて第一回遺伝学会分科会「遺伝学の将来を考える」を開催しました。初めての試みでしたが、100名以上の方にご参加いただき、大変盛況な会となりました。

2題の研究基調講演では、遺伝学研究の新しい展開に、参加者一同大いに刺激を受けることができました。また「遺伝学の将来を考える」討論会では、遺伝学の黎明期から未来にわたるまで様々な観点から意見交換が行われ、各々遺伝学について考えるきっかけになったと思います。

本分科会のメインイベントであるポスター発表では、全国から集まった50題のポスターが遺伝研の講堂を埋め尽くし、白熱した議論がくりひろげられました。

参加者による投票により、以下の10名がポスター発表賞に選考され、副賞として会長よりアマゾンギフトカードが贈られました。受賞者のみなさん、おめでとうございます。

第一回遺伝学会分科会のポスター発表賞受賞者

矢野 大和さん（東北大 生命）
新井 健太さん（筑波大 生命環境科学研究科）
片平 泰弘さん（東海大 総合医学研究所）
今井裕紀子さん（遺伝研 遺伝形質研究系，総研大）
井元 順一さん（遺伝研 ゲノム・進化，総研大）
樋口 拓人さん（東工大 生命理工）
Zdravkovic Aleksandar さん
(Grad Sch Life Sci Tech, Tokyo Inst Tech)
Aisha Yesbolatova さん
(Natl Inst Genet, ROIS, SOKENDAI)
細木 拓也さん（遺伝研，総研大）
岡本 尚さん（遺伝研 遺伝形質，総研大）

関係者一同、皆様のご協力を深く感謝いたします。

会 長 小林 武彦
実行委員 平田たつみ，野々村賢一



第2回日本遺伝学会春季分科会 「遺伝学のパラダイムシフトを目指して」のご案内

今年も遺伝学の聖地「国立遺伝学研究所」で遺伝学会春季分科会を開催します。
是非ご参加ください。

日 時：2020年3月9日（月） 13：00－17：30（17：30から懇親会）

会 場：国立遺伝学研究所 講堂

プログラム：

[研究講演] 遺伝学で紐解く野生イネの穂の形作り

津田勝利 遺伝学研究所

[特別講演] 遺伝学の大発見に学ぶ

堀田凱樹 元日本遺伝学会会長

[パネル討論] 新しい生命科学をデザインする。空気、場、人

（司会 木村 暁 遺伝学研究所）

[ポスター発表会]

日本遺伝学会員以外の方の参加も歓迎します。遺伝学研究所を訪問したい方、遺伝学の将来を担うみなさんの参加をお待ちしています。

大会参加費無料

ポスター発表演題登録締め切り 2020年2月15日（土）

参加登録 2020年3月2日（月）（当日参加も可）

情報サイト：<https://gsj3.org/newslist/2019/news803/>

分科会のチラシ：

https://gsj3.org/wordpress_v2/wp-content/uploads/2019/11/dcca455e89e71fac305d9f1b6d17f2be.pdf

参加登録サイト：<https://forms.gle/1mwea3JrRGu2WxCsA>

日本遺伝学会第91回大会総会

日 時 2019年9月12日(木) 15時00分～16時00分

場 所 福井大学文京キャンパスA会場 K110講義室

総会次第

1	大会委員長挨拶	委員長	村井 耕二
2	日本遺伝学会会長挨拶並びに報告	会長	小林 武彦
3	報告		
	a 幹事報告	国内庶務幹事 渉外庶務幹事 会計幹事 編集幹事 企画・集会幹事 将来計画幹事 男女共同参画推進担当 広報担当, ホームページ編集 遺伝学普及・教育担当	野々村賢一 菱田 卓 真木 寿治 岩崎 博史 遠藤 俊徳 中別府雄作 榊屋 啓志 杉本 道彦 一柳 健司 篠原 美紀 荒木 喜美 那須田周平 関根 靖彦 平田たつみ 沖 昌也 池村 淑道 小林 武彦 菱田 卓
	b 学会賞選考委員会報告	委員長	小林 武彦
	c 生物科学学会連合報告	委員	菱田 卓
	d その他		
4	議事		
	a 2018年度決算	会計幹事	真木 寿治
		会計監査	榊根 一夫
	b 2020年度予算案	会計幹事	真木 寿治
	c 第93回大会について	企画・集会幹事	遠藤 俊徳
	d その他		
5	次期(第92回)大会委員長挨拶	第92回大会委員長	荒木 喜美
	日本遺伝学会木原賞・奨励賞授与式	会長	小林 武彦

1) 会員数 (2019年8月1日現在)

普 通 会 員	717 名 (内学生会員 247 名)
外 国 会 員	3 名
シニア 会 員	42 名
準 会 員	3 名
機 関 会 員	27 件
賛 助 会 員	1 件
休 会	19 名
名 誉 会 員	国内 15 名
	外国 8 名
計	835 名

2) 2019年度役員名簿

会 長	小林 武彦				
評議員					
全国区	深川 竜郎	五條堀 淳	印南 秀樹	石井浩二郎	
	角谷 徹仁	片山 勉	黒岩 麻里	太田 邦史	
	長田 直樹	田村浩一郎			
北海道地区	伊藤 秀臣	金澤 章			
東北地区	大学 保一	春田(高橋)奈美			
関東地区	荒川 愛作	田中 剛			
東京地区	高橋 文	矢原 耕史			
中部地区	佐藤 豊	鈴木 善幸			
関西地区	高野 敏行	寺地 徹			
中国・四国地区	長岐 清孝	和多田正義			
九州地区	仁田坂英二	大野みずき			
幹 事					
国内庶務幹事	野々村賢一				
渉外庶務幹事	菱田 卓				
会計幹事	真木 寿治				
編集幹事	岩崎 博史				
企画・集会幹事	遠藤 俊徳	中別府雄作			
将来計画幹事	榊屋 啓志	杉本 道彦	一柳 健司		
男女共同参画推進担当	篠原 美紀	荒木 喜美			
広報担当, ホームページ編集	関根 靖彦	那須田周平			
遺伝学普及・教育担当	平田たつみ	沖 昌也			
シニア活性化	池村 淑道				
会計監査	梶根 一夫	村山 泰斗			
第91回大会委員長	村井 耕二				
学会賞選考委員会 (2019)					
委員長	小林 武彦				
委 員	深川 竜郎	五條堀 孝	印南 秀樹	角谷 徹仁	森 郁恵
	颯田 葉子				
研究助成金等推薦調査委員会 (2019)					
委員長	小林 武彦				
委 員	深川 竜郎	五條堀 淳	印南 秀樹	石井浩二郎	角谷 徹仁
	片山 勉	黒岩 麻里	太田 邦史	長田 直樹	田村浩一郎

3) 2018年度決算報告書 (2018年1月～2019年3月)

A 収 入		(単位 円)	B 支 出		(単位 円)
摘 要	決 算		摘 要	決 算	
1 学会費	5,601,084		1 事業費	9,962,640	
2 賛助会費	20,000		雑誌製作費	6,635,640	
3 科学研究費補助金	0		大会補助費	2,000,000	
4 事業収入	2,769,020		遺伝学談話会補助費	480,000	
雑誌売上	612,000		大会学生旅費補助	772,000	
投稿費	1,876,100		協力委員会分担金	75,000	
別刷代	276,200		2 評議委員会／幹事会費	884,106	
利息	4,720		3 事務費	4,765,229	
5 木原基金	100,000		雑誌発送費	704,098	
6 雑収入	79,708		封筒代	0	
7 90回大会補助金返金	667,666		編集経費	2,553,260	
8 その他	0		事務局経費	1,507,871	
小 計	9,237,478		4 学会賞関係費	367,522	
9 繰り越し金	37,675,083		5 学会費返金	76,000	
総 計	46,912,561		6 謝金	1,262,540	
			7 国際シンポジウム	1,147,125	
			小 計	18,465,162	
			8 次期繰越金	28,447,399	
			総 計	46,912,561	

4) 2020年度予算案

A 収 入		(単位千円)	B 支 出		(単位千円)
摘 要	予 算		摘 要	予 算	
1 学 会 費	5,500		1 事 業 費	6,315	
2 賛助会費	20		雑誌製作費	4,200	
3 科学研究費補助金	4,000		大会補助費	1,000	
4 事業収入	3,101		遺伝学談話会補助費(ナイトゼミナール代)	240	
雑誌売上	500		大会学生旅費補助	750	
投 稿 費	2,300		協力委員会分担金	125	
別 刷 代	300		2 評議委員会／幹事会費／委員会費	1,000	
利 息	1		3 事 務 費	3,150	
5 木原基金	200		雑誌発送費	450	
6 雑 収 入	174		編集経費	1,800	
			事務局経費	900	
小 計	12,995		4 学会賞関係費	300	
			5 謝 金	1,030	
			6 国際シンポジウム	1,200	
			小 計	12,995	

5) 2019年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞

日本遺伝学会木原賞 平野 博之(東京大学大学院理学系研究科)

「多面的アプローチによるイネの進化遺伝学的研究」

「Evolutionary genetic studies on rice (*Oryza sativa*) by a multilayered approach」

日本遺伝学会木原賞 松本 邦弘(名古屋大学大学院理学研究科)

「モデル生物の遺伝学を基盤とした生体応答シグナル伝達機構の解明」

「Elucidation of signal transduction mechanisms regulating cellular responses based on genetics of model organisms」

日本遺伝学会奨励賞 佐々木真理子(東京大学定量生命科学研究科)

「DNA複製阻害時のDNA二本鎖切断修復機構に関する研究」

「Understanding the mechanisms that repair DNA double-strand breaks formed in response to DNA replication stress」

日本遺伝学会奨励賞 鈴木 孝幸(名古屋大学大学院生命農学研究科)

「遺伝学・発生学を用いた四肢のパターン形成メカニズムの研究」

「Study of pattern formation of the tetrapod limb by genetics and developmental biology」

6) 協力委員会

同位元素協会委員 蓮沼 仰嗣

自然史学会連合委員 菱田 卓

生物科学学会連合委員 菱田 卓

7) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール

件 名	助 成 団 体 名	締 切
藤原賞	(財) 藤原科学財団	2019年12月20日 (金) 予定
猿橋賞	女性科学者に明るい未来をの会	2019年11月30日 (土)
東レ科学技術賞・研究助成	(財) 東レ科学振興会	2019年10月10日 (木)
沖縄研究奨励賞	(財) 沖縄協会	2019年 9 月30日 (月)
内藤記念海外学者招へい助成	内藤記念科学振興財団	前期 2019年 5 月27日 (月)
		後期 2019年 9 月24日 (火)
内藤記念講演助成金	内藤記念科学振興財団	夏季 2019年 5 月20日 (月)
		秋季 2019年 8 月20日 (火)
		冬季 2019年11月20日 (水)
		春季 2020年 2 月20日 (木)
木原記念財団学術賞	(財) 木原記念横浜生命科学振興財団	2019年 9 月30日 (月)
井上学術賞	井上科学財団	2019年 9 月20日 (金)
井上研究奨励賞	井上科学財団	2019年 9 月20日 (金)
朝日賞	朝日新聞社	2019年 8 月26日 (月)
井上リサーチアワード	井上科学財団	2019年 7 月31日 (水)
基礎科学研究助成	(財) 住友財団	2019年 6 月30日 (日)
環境研究助成	(財) 住友財団	2019年 6 月30日 (日)
持田記念学術賞	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2019年 5 月20日 (月)
研究助成金	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2019年 5 月 8 日 (水)
留学補助金	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2019年 5 月15日 (水)
山崎貞一賞	材料科学技術振興財団	2019年 4 月30日 (火)
研究助成金	(財) 山田科学振興財団	2019年 2 月22日 (金)

各種助成金の募集

学会の推薦を必要とする場合は学会内で選考のため財団の提出締切より、通常は1ヶ月早く締め切る。尚、各助成金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

8) 開催地一覧

回	年	月	日	会 場	回	年	月	日	会 場
1	1928(昭3)	10	19	九州帝国大学農学部	47	1975(昭50)	10	3～5	日本大学三島校舎
2	1929(昭4)	7	26	北海道帝国大学農学部	48	1976(昭51)	10	28～30	日本生命中之島研究所 (大阪)
3	1930(昭5)	10	31	東京農事試験場	49	1977(昭52)	9	28～30	北海道経済センター (札幌)
4	1931(昭6)	10	31	京都帝国大学・楽友会館	50	1978(昭53)	10	8～10	東京農業大学
5	1932(昭7)	10	14	名古屋医科大学	51	1979(昭54)	10	11～13	京都大学農学部
6	1933(昭8)	10	26	広島文理科大学 動物学教室	52	1980(昭55)	10	6～8	富山大学教養部
7	1934(昭9)	12	21	台北帝国大学 生物学教室	53	1981(昭56)	10	12～14	広島大学総合科学部
8	1935(昭10)	10	21	金沢医科大学 法医学教室	54	1982(昭57)	11	19～21	九州大学医学部
9	1936(昭11)	10	16	岡山医科大学 生理学教室	55	1983(昭58)	10	8～10	東北大学教養部
10	1937(昭12)	7	31	北海道帝国大学理学部	56	1984(昭59)	11	23～25	日本大学国際関係学部
11	1938(昭13)	10	13～15	九州帝国大学農学部・医学部・九州小麦試験地	57	1985(昭60)	10	13～15	神戸大学農学部・理学部・自然科学系
12	1939(昭14)	10	14～15	科学博物館 (東京)	58	1986(昭61)	12	4～7	名古屋観光ホテル
13	1940(昭15)	8	27～28	京城帝国大学医学部	59	1987(昭62)	10	29～30	筑波大学生物科学系
14	1941(昭16)			地方談話会大会 (総会予定地は仙台) (6会場)	60	1988(昭63)	10	8～10	京都大学農学部
15	1942(昭17)	10	27～28	東北帝国大学 農学研究部	61	1989(平元)	10	13～15	北海道大学学術交流会館
16	1943(昭18)	10	20～21	京都帝国大学・楽友会館	62	1990(平2)	10	4～6	お茶の水女子大学
17	1944(昭19)			地方談話会大会 (総会予定地は名古屋) (7会場)	63	1991(平3)	10	16～18	九州大学箱崎キャンパス
18	1946(昭21)	11	18～19	静岡高等学校	64	1992(平4)	10	22～24	仙台国際センター
19	1947(昭22)	10	21～22	松本高等学校	65	1993(平5)	9	17～19	日本大学国際関係学部
20	1948(昭23)	10	23～24	高野山	66	1994(平6)	10	8～10	大阪大学医学部講義棟
21	1949(昭24)	10	20～22	名古屋大学理学部	67	1995(平7)	10	12～14	岡山大学一般教育講義
22	1950(昭25)	10	14～16	東京大学医学部	68	1996(平8)	10	3～5	名古屋・相山女学園大学
23	1951(昭26)	10	11～12	広島大学教養部	69	1997(平9)	11	1～3	横浜市立大学瀬戸キャンパス
24	1952(昭27)	10	8～10	新潟大学医学部	70	1998(平10)	9	23～25	北海道大学学術交流会館
25	1953(昭28)	11	7～8	国立遺伝学研究所	71	1999(平11)	9	24～26	広島大学理学部・法学部・経済学部
26	1954(昭29)	10	28～30	京都大学医学部	72	2000(平12)	11	3～5	京都大学農学部・京都会場会議場
27	1955(昭30)	10	16～18	岡山大学	73	2001(平13)	9	22～24	お茶の水女子大学
28	1956(昭31)	10	6～8	富山市公会堂	74	2002(平14)	10	1～3	九州大学箱崎キャンパス
29	1957(昭32)	9	3～5	北海道大学農学部	75	2003(平15)	9	24～26	東北大学川内キャンパス
30	1958(昭33)	10	16～19	名古屋大学医学部	76	2004(平16)	9	27～29	大阪大学コンベンションホール
31	1959(昭34)	11	4～7	大阪大学医学部	77	2005(平17)	9	27～29	国立オリンピック記念青少年総合センター (東京)
32	1960(昭35)	10	30日～ 11月1日	九州大学工学部	78	2006(平18)	9	25～27	つくば国際会議場
33	1961(昭36)	9	1～3	東北大学川内分校	79	2007(平19)	9	19～21	岡山大学
34	1962(昭37)	10	17～18	日本大学文理学部三島校舎	80	2008(平20)	9	3～5	名古屋大学
35	1963(昭38)	10	8～10	東京大学教養学部	81	2009(平21)	9	16～18	信州大学
36	1964(昭39)	10	18～20	愛媛大学	82	2010(平22)	9	20～22	北海道大学高等教育機能開発総合センター
37	1965(昭40)	10	18～20	京都大学医学部・楽友会館	83	2011(平23)	9	20～22	京都大学農学部・農学研究科 (吉田キャンパス北部構内)
38	1966(昭41)	8	10～12	北海道大学教養部	84	2012(平24)	9	24～26	九州大学医学部百年講堂・同窓会館
39	1967(昭42)	10	9～11	神戸大学教養部	85	2013(平25)	9	19～21	慶應義塾大学日吉キャンパス
40	1968(昭43)	10	7～9	広島大学教養部・政経学部	86	2014(平26)	9	17～19	長浜バイオ大学
41	1969(昭44)	10	10～12	金沢大学工学部	87	2015(平27)	9	24～26	東北大学川内北キャンパス
42	1970(昭45)	10	5～7	東京女子大学短期大学部	88	2016(平28)	9	7～9	日本大学国際関係学部三島校舎
43	1971(昭46)	10	20～22	九州大学理学部・農学部	89	2017(平29)	9	13～15	岡山大学一般教育棟および創立五十周年記念館
44	1972(昭47)	10	7～9	岡山大学理学部・法文学部	90	2018(平30)	9	19～21	奈良先端科学技術大学院大学
45	1973(昭48)	10	14～16	名古屋大学農学部	91	2019(令和元)	9	11～13	福岡大学文京キャンパス
46	1974(昭49)	9	10～12	福祉会館 (仙台)					

2019年度日本遺伝学会第1回幹事会／評議員会議事録

日 時：2019年9月10日（火） 幹事会：12時00分～14時30分

評議員会：14時40分～16時40分

場 所：アオッサ6階福井地域交流プラザ603室

出席者：（会 長）小林

（幹 事）野々村，菱田，真木，岩崎，遠藤，榎屋，杉本，篠原，荒木喜，関根，那須田，平田，沖，池村，村井（第91回大会委員長），荒木正（第92回大会副委員長）（順不同，敬称略）

（評 議 員）深川，石井，角谷，片山，太田，田村，大学，春田，田中，高橋，鈴木，高野，寺地，長岐（順不同，敬称略）

1. 会長挨拶（小林）

2. 報告事項

2.1 会長報告（小林）

90回大会以降の物故会員はなし。

遺伝学百科事典について，100周年記念行事として取り組み，来年の熊本大会には刊行できるように努力する。

遺伝単についても2020年に改訂版が刊行できるように努力する。

春の分科会については，盛会であった。

学会賞・奨励賞の選考委員会において委員の選出方法について，話し合われたが現状のまま変更なしとなった。

会則の追加（第12条本会の事務年度は毎年4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる。）は既に評議員には了承いただいている由，報告された。

100周年で百科事典以外の行事案についての意見を募ったが特になし。

事務局の勤務時間の見直しについて，扶養の範囲内130万円までに変更した。

2.2 国内庶務幹事報告（野々村）

遺伝学会ホームページがラフラからレタープレスに契約変更され，リニューアルし今大会中に公開すると報告された。

年会費の支払状況（学生会員の初年度会費免除について）は学生の誤送金が多いと報告された。

学生会員のクレジットカード払いについて現行不可となっていたが，複雑な会員区分のため，全会員が使用可とすることを幹事，評議員により了承された。

日本遺伝学会が関係している学術賞・研究助成についての報告がされた。結果は以下の通り。

東レ科学振興財団（2018）不採択

2.3 渉外庶務幹事報告（菱田）

生物科学学会連合の第18回，第19回定例会議について報告がなされた（別紙1）。

第18回遺伝学談話会（福岡開催）について，10月4日に九州大学で三浦恭子先生（熊本大学）を講演者に迎え開催されると報告された。

また，第1回高校生生きものの“つぶやき”フォトコンテスト参加へ協力依頼がされた。

2.4 会計幹事報告（真木）

2019年度会員数について，以下の報告がされた。

昨年度の会員数（シニア会員39名，普通会員493名，学生会員194名）

今年度の会員数（シニア会員42名，普通会員470名，学生会員247名）

2019年度中間報告（6/30）今年度から中止について，今年度より，会計年度を4月から3月までに変更したため，本来は半年分の会計状況を出すには10月までの収支を示す必要がある。しかし，総会が9月であり，また，総会資料作成の締め切りが7月であることから，今後は中間報告を行わないと報告された。

決算報告外資金について，会計事務所の指導により，今年度から資金の全てを予算と決算に示すことに変更した。これまでの決算報告外資金は予備費・繰越し金として計上することとした。これまで通りに，遺伝学会の国際化と若手会員の確保・支援を中心に計画的な支出を行うための原資とするが，科研費が獲得できなかった場合の予算補填にも使うことになると報告された。

国際化の関係資金の使い方について，台湾派遣学生の旅費について再度見直すかと報告された。

2.5 編集幹事報告（岩崎）

平成30年度の科研費申請の報告や今年度申請への対策が報告された。

編集委員について3名を新たに向かえ、前編集長の館田先生には編集委員から編集顧問として就任いただいたと報告された。また、一年間務めた reviewer を公表し、貢献を感謝するシステムの構築、HP で公開が決まった論文に関係のある先生方への個人メールサービスを開始したと報告された。

真のオープンアクセスに関しては引き続き検討していくと報告された。

2.6 企画・集会幹事報告（遠藤）

第91回大会 BP 賞選考について協力依頼がされた。

大会開催方法の見直しについて進化学会に参加しての体験談等が報告された（別紙2）。また、次回より総会を大会最終日に開催する事が幹事、評議員により了承された。

2.7 第91回大会の準備状況について（村井大会委員長）

台風の影響で要旨集が会員に届いていないアクシデントがあったがそれ以外は順調に進んでおり、事前参加者も324人と多く、発表演題数は70以上と報告された。

2.8 国際シンポジウム（in 福井）の開催について（沖）

第91回大会における学会企画国際シンポジウムについて、鐘巻将人会員（国立遺伝学研究所）に世話をお願いし、イギリスからは Dr. Patrick Yizhi Cai を招聘したと報告された。また、2グループによる新学術シンポジウムも開催されると報告された。

2.9 台湾の学生交換について（当日は中別府幹事が欠席のため遠藤幹事が代理）

日台学生交換プログラムによる学生2名を台湾から受け入れたと報告された。

Mr. Kung-Ping Lin（林恭平）、Ms. Tran, Huyen-Trang（陳玄莊）

ISEGB 2019公募状況については、9月5日に学会 HP 掲載し、学会員にメール配信した。また、締切は9月27日（金）であると報告された。

2.10 第92回大会（熊本）の準備状況（荒木）

令和2年9月16日（水）－18日（金）（19日（土）に市民公開講座を予定）に開催、くまもと県民交流館パレア（熊本市中央区手取本町8番9号）を大会会場とすると報告された。

2.11 将来計画幹事報告（榎屋、杉本、一柳）

遺伝学教育用語検討委員会活動について報告がされ（別紙3）、遺伝学会は高校生の教科書にしばった用語を改訂し、他学会と交流しながら進めていくと報告された。

2.12 男女共同参画推進担当報告（篠原、荒木）

第91回大会演題登録時のアンケート実施およびランチョン WS 開催について、「女性にとってワークとライフの境目は？ ～女性就業率ナンバーワン福井県の秘訣！～」への参加依頼があった。

遺伝学会の会員における男女比、年齢分布等（別紙4）から、シンポジウム WS の世話人に女性が少ないので、女性から率先して応募をしていくことが望ましいと報告された。また、第91回大会参加支援について（1件）の申請があったと報告された。

日本遺伝学会男女共同参画推進委員メンバーの更新について報告された。

古郡 麻子（大阪大学）、一柳 健司（名古屋大学）、大坪 久子（日本大学）、高橋 文（首都大学東京）、愿山 郁（東北大）

2.13 遺伝学普及・教育担当報告（沖、平田）

春の分科会について（平田）

3月8日に国立遺伝学研究所で開催され100名以上の参加があり盛況に終わった。

2題の研究基調講演後には「遺伝学の将来を考える」討論会が行われた。

また、全国から50題のポスター発表があり、ポスター発表賞には10名が選ばれ副賞として会長よりアマゾンギフトカードが贈られた。今後も継続していく事が報告された。

本年度の大会におけるポスター発表に関して（沖）

30演題エントリーし、懇親会で YBP 賞を発表する事が報告された。また、高校生のポスター発表が15演題あり、それぞれに認定証を渡すと報告がなされた。

2.14 広報担当、ホームページ編集報告（関根、那須田）

福井大会のナイトゼミナールの報告文の掲載について、沖大会副委員長から若手の先生方に依頼をした事が報告された。

2.15 2019年度日本遺伝学会賞選考委員会報告（小林）

7月15日に国立遺伝学研究所にて開催された学会賞選考委員会についての報告がされ、審議の結果、次の会員を授賞者とした。

木原賞：平野博之会員、松本邦弘会員

奨励賞：佐々木真理子会員，鈴木孝幸会員

2. 16 シニア活性化（池村）

談話会的なものをシニア中心となって開催していくことや，熊本大会でシニアが参加したくなるようなWSを開催予定。また，遺伝百科事典にシニアが参加しており，実務的な事をシニアが担う等が報告された。

3. 協議事項

会則，定義について，野々村幹事より提案（別紙5）があり，幹事，評議員会で変更される事が了承された。

【別紙1】

生物科学学会連合 定例会議（第18回2018/10/1，第19回2019/4/2）報告

- 1) 第18回会議において2019-20年度の代表選挙が行われ，小林武彦氏が選出された。
（副代表：井関祥子氏，松永幸大氏）
- 2) 第19回会議において，小林代表から今後の生科連の重点活動計画として3つの課題が示された。具体的には，それぞれに対応する3つの委員会を立ち上げ，加盟学協会が分担して参加することになった。日本遺伝学会は地球生物プロジェクト委員会に参加。
 1. 研究費・人材育成委員会
 2. 生物教育・大学入試問題検討委員会
 3. 地球生物プロジェクト委員会進行企画：いきもののつぶやきフォトコンテスト（締切：10月31日）
- 3) 生科連ホームページのリニューアル
・ウェブサイトを使用する学会ロゴの作成



- 4) 第31回国際生物学オリンピック（2020年日本大会，長崎）への協力
・本連合から30万円の寄付を行った。

【別紙2】

大会開催方法の見直しについて

企画集会幹事 遠藤俊徳

1. 大会の形式見直しについて
進化学会（札幌大会）は若い人の参加が多かった：
（参加者の声）活気があって楽しい。参加費・年会費が安い。
（気づいた点）
初日午前に「夏の学校」を開催／大学院生はポスターが中心。要旨から選抜有。／午前中にシンポジウム（ワークショップ）：自由な雰囲気／初日・2日目の午後にPワークショップ：満席に近い聴講者／高校生発表・表彰（SSHが積極的に参加）／総会・受賞講演の参加者が多い／懇親会：参加者は多いが料理が余った／大会グッズの販売があった
2. 冊子体プログラム廃止／PDF化・Web化の検討
 - a. 冊子体の配布廃止で費用を節減／テンプレート化で作成負担を軽減？
 - b. 日程表・会場案内等の最小限の情報を記した小冊子のみ提供
 - c. 希望者には実費で印刷版冊子を配布
（参考160ページ製本100部16万，200部18万，400部21万円）
採算ライン <http://bit.ly/2MDV44R>
100部→1冊1600円，120部→1冊1500円，150部→1冊1200円，
200部→1冊900円 ∴1200～1500円程度に設定？
3. late-breaking abstract の検討
 - a. 大学院生にとってより参加しやすい

- b. Web 化すればメ切延長が容易
- c. Late-breaking abstract は分類せず最後にまとめる
- 4. BP 賞の見直し：会期中に表彰する仕組みの検討
- 5. 大会引継ぎ支援：
 - a. HP 構成の継承（Google sites 導入済）
 - b. 非公開の Web サイトを用意し各種情報提供
 - c. 年会共通口座の準備：実行委員会の負担軽減／クレジット決裁の恒久的導入
- 6. 座長決定方法：現状，実行委員会一任；専任，推薦，投票などにしては？
（利点）若手へ早期依頼で参加を促す（課題）分野毎の演題数変動
- 7. 情報発信方法の見直し：twitter や facebook による情報発信の検討
（課題）要担当者，内容と頻度：各種募集・依頼時，メ切前（複数）などを固定。
HP に RSS フィード取込み：情報源を一元化して手間と不整合を抑える。
- 8. 開催地の選定方法：首都圏・関西が集客しやすい，地方とのバランスを検討，立候補制？
- 9. ポスドク～助手の参加を促す方策：参加費軽減，非会員誘導，若手の会設定・支援
- 10. メンデル生誕200年（2022年）の記念行事

【別紙3】

遺伝学教育用語検討委員会活動報告

2019. 9. 10. 将来計画幹事報告（榊屋・杉本・一柳）

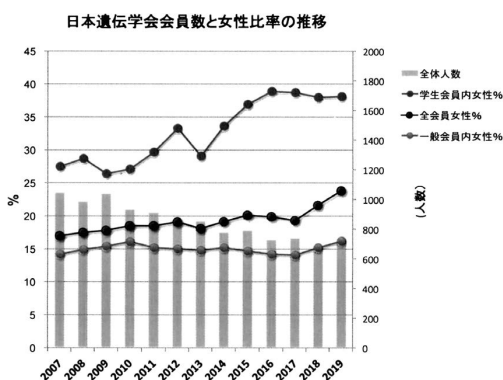
全期間	委員による遺伝学用語の歴史の検討が ML を通じ継続されている。 *優性／劣性，顕性／潜性その他用語の由来や歴史，遺伝研にあるメンデル論文別刷の由来，メンデル以前の日本の遺伝学，等
2018. 10. 4	生科連より日本学術会議報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」の改訂に関して，各学協会に意見を求める依頼があった，以降，メールにて協議。
2018. 10. 25	染色体学会との意見調整をすべく，「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」に関して，染色体学会との意見交換項目についてまとめ，さらに議論を進めた。
2018. 12. 11	日本医学会シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」で，榊屋が遺伝学会の立場について発表， http://jams.med.or.jp/symposium/pdf_sympo-poster_kokai2018.pdf
2018. 12. 21	人類遺伝学会に日本学術会議報告への意見書を送付し，調整を依頼
2019. 1. 9	人類遺伝学会の意見を反映し，意見書を生科連に提出，受理
2019. 2月	GGs に，委員の遠藤先生が執筆した「Best Papers 受賞者の祝辞と，遺伝学用語にまつわる話」が掲載
2019. 3. 19	日本医学会遺伝学用語改訂 WG 会合（池内先生参加）
2019. 6. 10	日本医学会にて「奇形」の検討開始の打診，榊屋が WG 委員として参加。
2019. 7. 8	日本学術会議の「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」が発表，顕性，潜性を主とする結論，各所でニュースに。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-h190708.pdf
2019. 7. 18	日本医学会遺伝学用語改訂 WG 会合（榊屋参加）学術会議結論に対する地対応を検討，基礎生物系と医学系との間のコミュニケーションがもっと必要であり，学術会議の生物科学分科会とコミュニケーションの場を設ける提案をした上で，医学会の活動に関してもアピールしていく方向。
2019. 9. 11	第91回大会 WS5 教育・学問・医療と遺伝学用語の課題～何を優先すべきか～：和訳 variation=多様性への反対意見を踏まえ，異なる立場からの課題を共有，議論の予定

今後の課題：

ML 議論で蓄積されている遺伝学用語の歴史について取りまとめ発表した方が良い？
遅れている遺伝単第2版の企画

以上

【別紙 4】



	女性	男性	計
教員 Faculty	5.5%	39.8%	45.3%
常勤研究員	1.5%	7.3%	8.8%
非常勤研究員	1.5%	2.2%	3.6%
学生(博士過程)	1.8%	5.1%	6.9%
学生(修士課程)	10.2%	16.1%	26.3%
学生(学部)	2.9%	3.6%	6.6%
シニア会員	0.4%	1.1%	1.5%
回答なし	0.7%	0.4%	1.1%
全体	24.5%	75.5%	100.0%

ポスター	24%
座長	24%
シンポWS世話人	9%

【別紙 5】

日本遺伝学会 幹事会・評議員会 資料

2019.9.10 国内庶務監事 野々村賢一

遺伝学会会則

現行	改正案
第1条 本会は日本遺伝学会と称する。	本会は公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会と称する。
第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。	
第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。	本会は事務局を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。	本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業（退職者は前職）を明記して本会事務所に申し込むこと。
第5条 本会会員は普通会員、シニア会員、準会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。65歳以上の普通会員は申し出によりシニア会員に資格変更できる。準会員の資格は大学部生および高等学校等の教育機関の教員であることとする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは初年度の会費を免除し、2年目以降は3,000円とする。定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円とする。Genes & Genetic Systemsの印刷体の送付を希望しない場合には会費を500円減額する）を、準会員は2,000円を、機関会員は15,000円を、賛助会員は10（20,000円）以上を前納すること。シニア会員は資格変更の際に30,000円の永年会費を納入することとし、以降の会費の納入は免除される。普通会員および準会員が休職および海外留学をする期間を休会とすることを申し出たときは会費を免除する。なお、シニア会員及び準会員は、会長および評議員の被選挙権を有しない。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。	本会会員は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。ただし、年会費滞納1年におよぶものは会員資格を失うものとする。 (1) 普通会員は年会費10,000円を前納する。 (2) シニア普通会員は、定年退職して常勤職でないことを申し出た者がなれる。以降の年会費6,000円を前納する。会長および評議員の被選挙権は有しない。 (3) シニア永年会員は、当学会に5年以上在籍する65歳以上の普通会員もしくはシニア普通会員が、初回のみ30,000円の永年会費を納入して資格変更でき、以降の会費および大会参加費の納入は免除される。会長および評議員の被選挙権は有しない。 (4) 学生会員は、在学証明書またはそれに代わるものを提出することで、初年度の年会費を免除し、2年目以降は3,000円を前納する。 (5) 教育会員は、小・中・高等学校等の教育機関の教員を対象とし、年会費2,000円を前納する。会長および評議員の被選挙権は有しない。 (6) 機関会員は15,000円を、賛助会員は10（20,000円）以上を前納する。 (7) 普通会員、シニア普通会員、学生会員および教育会員が休職および海外留学をする期間の休会を申し出たときは、その期間中の年会費を免除する。
第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。 本会に功勞のあった者。外国の卓越した遺伝学者。	本会は次の者を総会の決議により名誉会員の称号、あるいは特別功勞賞を授与することができる。 本会に功勞のあった者。外国の卓越した遺伝学者。
第7条 本会は隔月1回Genes & Genetic Systemsを発行する。印刷体は機関会員、賛助会員および希望する普通会員に配布する。	本会は隔月1回Genes & Genetic Systemsを発行する。印刷体は機関会員、賛助会員、および希望する普通会員と学生会員に配布する。印刷体の送付を希望しない普通会員と学生会員は年会費を500円減額する。特に希望がある場合を除き、シニア普通会員およびシニア永年会員には印刷体を送付しない。
第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い、講演会では普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員の研究発表をする。	本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い、講演会では普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員の研究発表をする。
第9条 大会に関する世話は大委員会若千名によって行い、大委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。	会長は、評議員が普通会員および学生会員の中から選出した複数の候補者から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙によって選出される。 評議員は、普通会員および学生会員の中から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙で選出される。

2019年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議議事概要

開催日時：2019年9月10日（火）16時50分～17時50分

会議場所：「アオッサの6階福井地域交流プラザ603室」<http://www.aossa.jp>

出席者：伊藤雅信，岩崎博史，角谷徹仁，小林武彦，権藤洋一，颯田葉子，澤村京一，Jeffrey Fawcett，高橋 文，田嶋 敦，田中秀逸，那須田周平，西原秀典，野々村賢一，平野博之，真木寿治，村井耕二，村田 稔

議 題

1. GGS PRIZE について

颯田委員より1編を最終候補とした経緯及び論文の内容の説明があった。審議の結果，新奇性及び学術的重要性を担保するために，一年間審査を延長することとした。そのため，2019年度 GGS prize は該当論文無しとした。

2. 平成31年度科研費（研究成果公開促進費）申請の報告

種 目：国際情報発信強化（国際情報発信強化（B））

事業課題名：商業誌とは異なる学会誌独自の評価基準を構築し真に学術的重要性が高い論文の国際情報発信を強化していくための取組

申 請 額：H31年度～H34年度400万円：H35年度まで398万円

不採択

3. 編集委員・顧問のご就任，ご退任（敬称略）

新編集委員

岡田 随象 大阪大学大学院医学系研究科（*Human Genetics, Bioinformatics, Statistical Genetics*）

志波 優 東京農薬大学生命科学部分子微生物学科（*Genomics, Bioinformatics*）

ジェフリー フォーセット 理研和光 iTHEMS（*Genome Evolution*）

編集顧問（編集委員から）

館田 英典 九州大学

報告・協議事項

1. 論文発行状況

Volume 93

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	5	0	3	2	0	2018年7月13日
2	5	0	4	1	0	2018年9月15日
3	5	0	4	1	0	2018年10月30日
4	5	1	3	1	0	2018年11月10日
5	5	0	5	0	0	2018年12月22日
6	5	0	5	0	0	2019年1月19日

Volume 94

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	5	3	2	0	0	2019年4月9日
2	5	0	3	2	0	2019年4月27日
3	5	0	4	1	0	2019年7月27日
4（予定）	5	1	3	1	0	
5						
6						

2. 論文投稿状況（8月20日現在）

	2018. 8. 20–2019. 8. 26	2017. 8. 28–2018. 8. 19（参考）
総投稿論文数	62	62
採 択	21	22
不 採 択	25	28
査 読 中	14	11
取下げ等その他	4	1
採 択 率	45.7%（21/46）	44.0%（22/50）

3. Impact factor

	IF	5-year IF
2018年	0.859	1.137
2017年	0.913	1.024
2016年	0.703	1.103
2015年	1.339	1.267
2014年	0.930	0.901

参考	Genes to Cells	1.922
	DNA Research	4.000
	J. Plant Research	2.082
	J. Biochem	2.230
	Cell Structure and Function	3.500（2.291 in 2017）（CC BY 4.0）

4. Early online になった論文を研究者へ連絡を開始

EO で J-stage での公開が決まった論文に関しては、著者からの依頼をもとに関係研究者5名から10名に、その公開をメールにて連絡するサービスを開始した。

5. 発刊の際に日本語での contents 配信開始

巻が新たに J-stage で公開される際に、遺伝学会メーリングリストに、巻の contents を日本語（日本人からの投稿の場合のみ）で紹介する配信サービスを開始した。

6. 査読者名の公表と、貢献を感謝するシステムの構築

GGs HP と no6 で、reviewer を公開するとともに、個々の reviewer に年度の終わりにメールベースで感謝状を送付することとした。これは、vol 95 から開始することにする。

7. オープンアクセスと CC について

DOAJ 収録へ申請することを承認した。一方、CC ライセンスに関しては、引き続きメール審議とした。

<https://creativecommons.org/share-your-work/licensing-types-examples/>

<https://creativecommons.jp/licenses/>

8. GGS HP

作成中

日本遺伝学会第91回大会総会議事録

日 時：2019年9月12日（木）15時00分～16時00分

場 所：福井大学文京キャンパス A 会場（K110講義室）

出席者：小林会長，幹事他130名

1. 議長選出

議長に堀家慎一会員（金沢大学），松岡由浩会員（福井県立大学）が選出された。

2. 村井大会委員長挨拶

3. 小林日本遺伝学会会長挨拶

4. 報告事項（評議員会議事録参照）

5. 議 事

① 2018年度会計決算について

真木会計幹事から総会資料にもとづき説明がなされた。また，梅根一夫会計監査から，5月31日に村山泰斗会計監査とともに国立遺伝学研究所にて会計監査を実施した結果，2018年度の会計は適正に行われている旨の報告があり，それぞれ承認された。

② 2020年度予算案について

真木会計幹事から，総会資料にもとづき説明があり，予算通り承認された。

③ 第93回大会について

遠藤企画集会幹事から，首都圏で開催が予定されていると報告がされた。

④ 会則・覚書の改正について

野々村庶務幹事から，会則，会長および評議員選挙に関するおぼえがき，日本遺伝学会学会賞および奨励賞に関する規定についての改正提案があり，それぞれ承認された。

日本遺伝学会木原賞，奨励賞授与式記録

総会終了後，木原賞受賞者（平野博之会員，松本邦弘会員）と奨励賞受賞者（佐々木真理子会員，鈴木孝幸会員）に小林会長からそれぞれ賞状と副賞が授与された。授賞式終了後に木原賞，奨励賞受賞講演が行われた。

日本遺伝学会第91回大会（福井大会）を終えて

皆様のご協力のもと、去る9月11日から13日、福井大学文京キャンパスにおきまして、日本遺伝学会第91回大会が開催できましたこと、大会実行委員会として大いに誇りに思い、また、皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

今年は残暑が厳しく、暑い福井でしたが、多くの皆さんにご参加頂き、とても楽しい大会になりました。会員数の少ない福井県で、福井大学、福井県立大学、若狭湾エネルギー研究センターの方々と、そして石川県、富山県の会員の方々と大会実行委員会を組織し、1年半ほど前から準備を行ってきました。小林会長が「手作りの大会」だと仰って下さったこと、とてもうれしいお褒めのお言葉だと感じました。

本大会の参加者数は343名、一般演題数が122題、ポスター発表が30題ありました。地方開催の大会として、これほど多くの皆さんにご参加して頂いたこと、とても感謝しております。本大会では福井県内の高校から14題の高校生ポスター発表を行って頂きました。発表した高校生には小林会長からフューチャーサイエンティストとして学会発表認定証を授与しました。今後も高校生に遺伝学の魅力を発信していきたいです。ナイトゼミナールは生協食堂で145名の参加があり、福井の美味しいものを味わって頂き、科学的議論を深めました。

本大会では、国際シンポジウム1件6演題、シンポジウム2件20演題、ワークショップは13件67演題、プレナリーワークショップが4演題ありました。ワークショップでは、福井ワークショップも1件開催し、福井県での研究成果として恐竜の成果発表もありました。また、男女共同参画のランチョンセミナーも行いました。

大会2日目の懇親会はホテルフジタで行い、201名の参加がありました。福井県の自慢の日本酒の利き酒クイズは大いに盛り上がりました。主催者としてもとても楽しいイベントでした。

大会最終日の翌日14日（土）は、福井駅近くのハピリンホールで市民公開講座を開催し、150名ほどの一般市民の参加がありました。今回、福井県内の全図書館にチラシを配布し宣伝した効果が現れたのだと思います。エビジェネティクスという一般にはあまり馴染みのないテーマでしたが、皆さん熱心に聞いて下さり、質問も活発にでました。

講演要旨集の事前の不着、シンポジウムやワークショップの配置、また、懇親会での料理が不足気味であったことなど、数々の不手際がありましたこと、何とぞご容赦ください。

最後になりましたが、次回の熊本大会が盛況でありますことを祈念し、また、皆さんと熊本でお会いすることを楽しみにしています。

誠に、ありがとうございました。

2019年10月 福井にて

大会実行委員長 村井耕二

大会実行副委員長 沖 昌也

●●● 福井大会の様子 ●●●



第91回大会



村井大会委員長



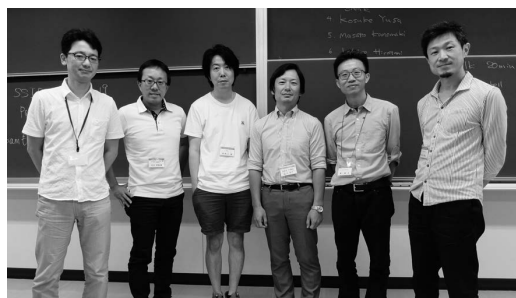
沖大会副委員長



小林学会長



荒木次期大会委員長



国際シンポジウム



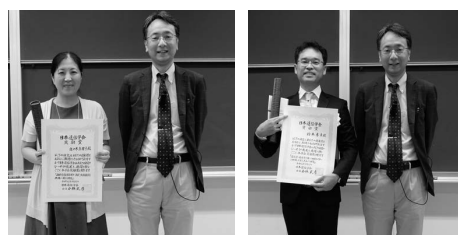
木原賞受賞



一般講演



プレナリーワークショップ会場



奨励賞受賞



ポスター賞受賞



懇親会



ポスター発表（高校生）



ポスター発表会場



男女共同参画
ワークショップ



2019年度ナイトゼミナールの報告

分子遺伝：高垣菜式（甲南大）

この度は貴重な意見交換の機会に参加させて頂きましてありがとうございます。若手からシニアの先生方まで幅広く参加されており、普段はあまり接することのない分野の皆様とも活発に議論をすることができてとてもいい機会になりました。現在、博士課程の最終学年に在籍しておりまして、論文公表のためのリバイス実験を行っている最中でしたため、論文公表や今後のキャリアパスに繋がる貴重な御意見も頂けましてとても有意義な集まりでした。また、女性研究者のキャリアパスについても伺うことができましたとても参考になりました。



エピゲノム

動物、植物、酵母等を扱いエピジェネティクス、エピゲノムを研究する大学院生や中堅研究者が多く集まりました。私の所属する大学では院生が少ないのですが、ナイトゼミナールで他大学の院生の研究生生活等を聞くことができるいい機会になりました。さらに、ナイトゼミナールでできた日本酒はどれも大変美味しかったのでまた福井に来たいと思いました。



行動・発生

行動・発生分野の研究者、修士学生が集まり、郷土料理や地酒を囲みながら和やかな雰囲気ではが行われました。研究についての話題が中心でしたが、ほかにも学生が参加しやすいような学会運営について等も話題にのぼりました。中盤からは他分野の方々も合流して会話が花が咲き、幅広い分野の研究者の方々と親交を深められる貴重な会となりました。



合成生物学，生命情報

合成生物学，生命情報では残念ながら他の分野ほどの参加者はいなかったものの，他の分野，研究室の先生方や学生も交えながら盛んに交流が行われており，とても有意義な会となりました．それぞれの研究の話，解析手法の相談といった研究に関することのみならず，先生方の海外での研究経験などのキャリアの話でも盛り上がりを見せていました．



集団進化・手段遺伝学

今年度のナイトゼミナールは例年のナイトゼミナールと比較すると学生の参加が比較的多く，シニア研究者や中堅研究者との交流だけではなく同年代の学生との交流も盛んに行うことができる有意義な場でありました．

また，海外から本大会に参加の学生との国際的な交流もあったところも良かったと感じています．

本大会が酒処である福井県で開催されたのもあり，様々な蔵元の日本酒を用意していただきました．

日本酒コーナーの周りではお酒好きの研究者が分野の垣根を超えて様々な議論を交わし和気藹々とした雰囲気でした．

集団遺伝学のテーブルでは，研究に関する非常に真剣な議論から，日々の研究生生活や研究室の日常的な話題まで，老若男女の参加者が盛んに議論をしていました．



第18回 遺伝学談話会報告

日 時：2019年10月4日午後3時～5時

場 所：九州大学伊都キャンパスウエスト1号館 WD-208

第18回遺伝学談話会は九州地区評議員の仁田坂、学会員の楠見を世話人として、福岡市・九州大学伊都キャンパスにおいて開催されました。今回は、寿命の決定に深く関わる老化、がん化、細胞死を制御するメカニズムについて、ハダカデバネズミを用いた研究を展開されている熊本大学・大学院先導機構／大学院生命科学研究所の三浦恭子先生にご講演いただきました。

三浦先生はiPS細胞を用いた研究の専門家で、世界で初めてハダカデバネズミからiPS細胞を作成することに成功されました。老化やがん化を制御のメカニズムについては、マウスやショウジョウバエといったモデル生物を用いた研究が広く行われてきた一方で、最近では、長寿やがん化耐性を持つよう進化してきた生物種を用いた研究が盛んになってきているようです。三浦先生が研究材料として着目しているハダカデバネズミは、長寿（最大寿命32年）やがん化耐性を持つだけでなく、哺乳類には珍しい真社会性を有し、低酸素／無酸素耐性、低体温といった様々な興味深い特徴を併せ持っています。今回のご講演では、がん化、老化、代謝制御、そして真社会性というテーマでご研究を紹介していただきました。ハダカデバネズミ由来のiPS細胞の腫瘍化耐性獲得には、2つのがん抑制遺伝子の種特異的な発現制御が鍵となっているそうです。これは、造腫瘍性が大きな課題となっているヒトES細胞やiPS細胞の再生医療利用にむけて新たな手がかりをもたらし発見と言えるでしょう。また、ハダカデバネズミは細胞老化や細胞死においても種特異的な応答、機構を持っているというお話もありました。生物に普遍的に見られる生命現象の制御機構が、実は生物種間で多様に進化していることに驚きを感じるとともに、今後、様々な長寿生物での研究が進むことで、これまでの概念を覆すような面白い発見がでてくるのではないかと感じました。三浦先生の研究室では、巣を模した形にアクリルボックスを複数連結したケージを用いて飼育を行っており、将来的には1,000匹を超える個体を飼育できるようにしたいとのことでした。飼育・繁殖方法や実験系の確立にあたっては大変なご苦労があったことは想像に難くないですが、自ら基礎的研究基盤を構築し、細胞レベルの生理学的解析やオミックス解析、行動・生態特性の



解明に至るまで幅広い視点からの研究を精力的に行われており、講演を聞きにきた多くの学生にとって良い刺激となったのではないかと思います。

講演会の開催通知が直前になってしまったにも関わらず、参加者は40名近くあり、半数は学生でした。講演後の質疑も活発に行われ、この問題への関心の高さをうかがわれました。

最後に、今回の遺伝学談話会は福岡遺伝学談話会との共催で行われました。福岡遺伝学談話会は、木村資生先生が中立説を最初に発表された歴史のある会です。しばらく開催が滞っていたのですが、今年度から再開する運びとなりました。九州地区の学会員の交流の場として、今後も活発な活動が行われることを期待したいと思います。（楠見淳子）

2019年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

推薦者：佐藤 豊（国立遺伝学研究所 教授）
受賞候補者：平野 博之（東京大学 大学院理学系研究科 教授）



・略 歴

1978年3月 東北大学理学部生物学科 卒業
1983年3月 名古屋大学大学院農学研究科生化学制御専攻 満期退学
1983年4月 日本学術振興会奨励研究員（名古屋大学）
1984年4月 名古屋大学大学院農学研究科 大学院研究生
1986年3月 農学博士学位取得（名古屋大学）
1986年4月 東京大学大学院大学院理学系研究科 大学院研究生
1987年4月 日本学術振興会特別研究員（東京大学）
1988年12月 国立遺伝学研究所・助手
1996年5月 東京大学大学院農学生命科学研究科・助教授
2004年4月 東京大学大学院理学系研究科・教授

- ・研究題目：（和文）多面的アプローチによるイネの進化遺伝学的研究
（英文） Evolutionary genetic studies on rice (*Oryza sativa*) by a multilayered approach

・推薦理由

平野博之博士は、イネの進化を多角的な面から理解することを目的として、(I) 遺伝子の発現制御と米の品質、(II) トランスポゾンの転移とゲノム、および、(III) 花やメリステムを制御する発生機構、などについて、分子遺伝学的・進化遺伝学的研究を行い、優れた研究業績をあげてきました。平野博士は、植物の分子遺伝学が勃興した1980年代後半からイネを対象に研究を開始し、それまで農業作物としてのみの研究対象であったイネを、植物の生命現象を基礎的な面から理解するうえで重要なモデル生物であることを世界に認知させるとともに、穀類を中心としたイネ科植物の比較発生遺伝学の勃興と発展にも大きな貢献をしています。以下に詳しく述べるように広範かつ優れた研究業績をあげていますので、日本遺伝学会木原賞に相応しい候補者として、推薦いたします。

(I) 遺伝子の発現制御と米の品質に関する研究⁽¹⁻⁴⁾

米には、モチ米とウルチ米、ジャポニカ米とインディカ米のように、粘り気 (glutinousness) を指標とした品質があり、これはデンプン中のアミロースの割合（含量）によって決定されています。候補者は、アミロース合成を支配する WAXY (WX) 遺伝子をクローニングし、この遺伝子の発現量がアミロース含量と強い相関があることを解明しました⁽¹⁾。この研究により、WX 遺伝子が完全機能欠損するとモチ米になること、インディカはジャポニカに較べて WX の発現量が10倍程度高いこと、WX の発現量が高いほどアミロース含量が高く粘り気のない米になること、WX がわずかな温度にตอบสนองして発現量を変化しそれが米の品質に影響を与えることなど、多くのことが明らかとなりました⁽¹⁻⁴⁾。また、インディカに較べてジャポニカの WX の発現量が低いのは、5' UTR に存在するイントロンのスプライシングサイトの変異に起因し、ジャポニカではスプライシングの効率が悪いために、発現量が低くなることを明らかにしました⁽⁴⁾。また、野生イネも含めた進化遺伝学的研究により、イネの栽培化の過程で、スプライシングサイトに生じた1塩基置換が、WX 遺伝子の発現低下を通してジャポニカの米の品質を決定する主要因であることを解明しています⁽⁴⁾。ゲノム解析やイネの進化研究が進んでいる現在でも、この WX 遺伝子の1塩基置換はジャポニカの特性を象徴する栽培過程の主要な変異の一つとして認められており、この研究の先駆性をよく示しています。

(II) トランスポゾンの転移とゲノム進化に関する研究⁽⁵⁻⁸⁾

進化の過程でトランスポゾンがどのようにコピー数を増加させ、ゲノム内に蓄積していったのかは、ゲノムの進化にとって非常に興味のある課題です。候補者は、野生および栽培イネを用いて、小さなレトロトランスポゾンである SINE が、イネ属の進化の過程で、逐次特定の遺伝子座に挿入されてきたことを示しました⁽⁵⁾。また、MITE とよばれる小さな DNA 型トランスポゾンが薬培養によって活性化されることを発見するとともに、この MITE を転移させるトランスポゼースをコードする自律因子も見いだしました⁽⁶⁾。さらに、野生イネなどと比較することにより、MITE がジャポニカの栽培過程で急速にコピー数が増加したこと、自律因子をもたないインディカではこの増加が起こらなかったことも示し、トランスポゾンの増幅とダイナミックなゲノム進化の一端を解明しています。なお、これらの研究成果はイネの全ゲノム解読前およびその途上の時代に、すべて実験的に得られた結果であり、斬新なアイデアと多大な労力のたまものと言えます。

(III) 花や葉、メリステムの発生を制御する進化発生遺伝学的研究⁽⁹⁻¹¹⁾

20年ほど前より、単子葉類のモデル生物として、イネの発生分化や形態形成を制御する分子機構の解明を目指して研究を進めています。オオソドックスな発生遺伝学的手法により、発生や形態が異常となる原因遺伝子を同定し、イネの発生に重要な機能を果たしている数多くの遺伝子の機能を解明してきました。

(1) 例えば、花の発生では、(i) 雌蕊や雄蕊などの花の器官アイデンティティーを決定する鍵遺伝子の発見とその機能^(9, 10, 12, 17, 27, 31)、(ii) 花分裂組織（メリステム）と花の発生の相互作用^(21, 24)、(iii) 向背軸（背腹軸）の極性確立による雄蕊のパターン形成機構⁽¹⁸⁾、(iv) イネに特有な器官の形成機構^(16, 28)、(v) 花序構築のメカニズム^(20, 28, 30, 32)、などを解明し、多くの優れた研究成果を上げています。これらの研究で一貫しているのは、被子植物全体に共通する遺伝子機能とイネやその近縁種に独自の機能とを常に考えながら、進化的な視点からの研究と考察を行っていることです。とくに、候補者は、双子葉類の研究で発展してきた ABC モデルはイネ科には単純には適用でき無ことを示し、イネ科のための改変 ABC モデルを提案し^(31, 36, 39, 40)、このモデルは広く受け容れられてきています。

この中でも、9、10、11の論文は、それぞれ371、349、290回（2019年5月1日現在）、と平均年間20報以上引用されており、植物科学分野の研究者が少ないことを考慮すると、この分野で非常に高く評価されていることがわかります。

(2) 花器官や葉が分化する場であるメリステムには幹細胞が存在し、この幹細胞を一定の数に制御する恒常性の維持が、植物の発生に非常に重要です。候補者はこの維持機構の負の制御系として FON2-FON1 シグナル伝達系（リガンド-受容体）を見いだし、シロイヌナズナと類似した機構により単子葉類の幹細胞が維持されていることを明らかにしました^(11, 13;引用数 239, 125)。さらに、この伝達系とは独立な2つの経路を発見しました^(14, 15)。発見当初は、これらの経路はイネに特有のものと思われていましたが、最近海外の研究者により、これらの経路がトウモロコシやシロイヌナズナでも確認され、被子植物に共通してこれらの経路が機能していることが明らかにされつつあります。このことは、候補者のイネの研究の先進性を強く物語っています。また、幹細胞維持の正の制御因子はシロイヌナズナとは異なって、*WOX4* が制御していることを明らかにするとともに⁽²²⁾、この遺伝子が葉の初期発生にも重要なはたらきをしていることを解明しました。さらに、ブランチング（枝作り）に必須な腋芽メリステムの確立と維持を制御する正の因子を同定し⁽²³⁾、さらにその研究を発展させて負の因子の同定も進めています。

このように、候補者はイネの発生研究をリードしており、植物の発生遺伝学の牽引者の一人として、当該分野の書籍や総説の特集号などで頻繁に招待著者となっています^(33, 34, 36-41)。さらに、発生学分野のみならず、イネ全般の研究を網羅した書籍を編纂するなどイネ研究全般もリードするとともに⁽³⁵⁾、植物発生の専門書執筆し教育活動も貢献しています⁽⁴²⁾。また、*Genes and Genetic Systems* 誌にも論文を投稿し、本学会の出版活動にも貢献していますが、そのうち2編が GGS prize を受賞しています^(17, 26)。

候補者は、評議員を長年つとめるとともに *Genes and Genetic Systems* の編集委員・編集顧問を20年以上つとめ、日本遺伝学会の運営にも尽力しています。また、しばしばワークショップ開催するなど、本学会の活性化にも貢献しています。

以上、植物遺伝学分野におけるこれまでの優れた業績に基づき、日本遺伝学会木原賞候補者として平野博之博士を強く推薦いたします。疑問の点がありましたら何なりとお尋ねください。どうぞご検討をよろしくお願いいたします。

2019年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

推薦者：森 郁恵（名古屋大学大学院 教授）
受賞候補者：松本 邦弘（名古屋大学大学院 シニア・リサーチ・フェロー）



・略歴

学歴

昭和49年3月 大阪大学工学部醸酵工学科 卒業
昭和51年3月 大阪大学大学院工学研究科醸酵工学専攻修士課程 修了
昭和52年11月 大阪大学大学院工学研究科醸酵工学専攻博士課程 退学
昭和57年5月 工学博士（大阪大学）

職歴

昭和52年12月 鳥取大学工学部 助手
昭和60年3月 米国 DNAX 分子生物研究所 主任研究員
平成2年6月 名古屋大学理学部分子生物学科 教授
平成8年4月 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻 教授
平成27年4月 名古屋大学大学院理学研究科 研究科長
平成29年4月 名古屋大学大学院理学研究科 シニア・リサーチ・フェロー

・研究題目：（和文）モデル生物の遺伝学を基盤とした生体応答シグナル伝達機構の解明

（英文）Elucidation of signal transduction mechanisms regulating cellular responses based on genetics of model organisms

・推薦理由

細胞の増殖、発生・分化、再生などの生命現象は、様々なシグナル伝達系によって制御されており、その分子機構を解明することは極めて重要である。松本氏は、分子遺伝学を基盤に遺伝学的アプローチが可能なモデル生物を用いて、増殖、発生・分化、神経系などの生体応答を制御するシグナル伝達経路の発見と分子機構の解明で優れた業績を挙げている。

松本氏が学位を取得した1980年当時、cAMPは細胞内でセカンドメッセンジャーとして作用することは知られていた。しかし、その活性化機構、生理作用などは全く不明であった。松本氏は酵母の遺伝学を用いて、cAMPはcAMP依存性プロテインキナーゼを介して細胞増殖を制御していること、がん遺伝子RasのターゲットはcAMP合成酵素の活性を制御することにより細胞増殖を制御していることを見出した（論文1, 2, 4）。

酵母の性の決定には、性フェロモンと呼ばれる因子が関与している。松本氏は性フェロモンがGTP結合蛋白質を活性化し、ついで活性化されたGTP結合蛋白質がMAPキナーゼカスケードを活性化することにより細胞周期を制御していることを示した（論文3, 5）。この結果は、酵母での性フェロモンによるシグナル伝達が、動物細胞におけるホルモンによるシグナル伝達と同等であることを示し、細胞の増殖・分化のシグナル伝達には、酵母と動物細胞で同等の因子が関与しているという基本概念へと導いた（論文16）。

松本氏はこの概念を発展させ、『酵母のシグナル伝達系を利用した動物細胞遺伝子の分離』という独創的手法を開発した（論文6, 7）。すなわち、細胞周期に変異を持つ酵母ヘビトcDNA libraryを導入することにより、細胞周期が正常化するクローンを同定した。同定した分子の一つは、動物の発生・分化過程に重要な役割を果たしている増殖因子TGF- β （Transforming Growth Factor β ）によるシグナル伝達に必須のセリン・スレオニンプロテインキナーゼであることを見出し、TAK1（TGF- β Activated Kinase）と命名した（論文8）。続いて、TAK1に結合する蛋白質（TAB1, TAB2: TAK1-Binding Protein）を同定し、このうちTAB1因子はTAK1を活性化することによりTGF- β によるシグナルを増強させることを示した（論文9, 15）。

ところで、胚発生や分化、細胞のがん化にはTGF- β 以外に、WntやNotchと呼ばれるシグナル伝達系によって制御されているが、これらのシグナル系は互いに独立したシステムと考えられていた。松本氏は、ヒト細胞を用いてTAK1シグナル系を解析している過程で、細胞周期を制御するWntとTGF- β のシグナル系は、TAK1/TAB1を介して相互に制御しあう（Cross-Talk）こと（論文12, 22）、TAK1を介した情報経路がNotchのシグナルを抑制することを見出した（論文24）。

一方、松本氏は国内外のグループとの共同研究を進め、TAK1を介した情報伝達が動物の初期発生において、細胞の運命を決定していることを線虫を用いて証明するとともに（論文11）、哺乳動物ではIL（interleukin）-1やTNF- α （Tumor Necrosis Factor α ）に対する応答に必須の分子であることを見出した（論文10）。これらの結果は、TAK1を介した情報伝達が動物の発生過程ばかりでなく、動物の恒常性維持において重要な役割を担っていることを示している。

次に、松本氏が開発した『酵母のシグナル伝達系を利用した遺伝子の分離』の手法を線虫やショウジョウバエのモデル動物に適用し、発生・神経系を制御する新規シグナル因子群の分離と機能解明に成功した（論文13, 14, 17-21, 23）。さらに、線虫の系で同定した因子の中に、アルツハイマー病、パーキンソン病、高血圧症などのヒト遺伝性疾患の原因遺伝子が見出され、遺伝性疾患原因遺伝子の機能解明という新たな研究を展開している（論文25, 26）。

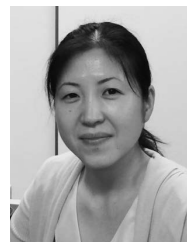
松本氏のシグナル伝達機構の解析は、最近、神経軸索再生過程の分子機構の解明へとシフトしている（論文27-38）。末梢神経は、障害を受けると再生する。松本氏は、線虫を用いて神経軸索の再生を可視化するシステムを構築した。そして、線虫のそれぞれの遺伝子（19,000種）に対する RNAi を発現する大腸菌を餌として与えることにより変異体を作成し、その変異体における軸索再生能を解析した。その結果、軸索の再生には、新規の増殖因子とその受容体チロシンキナーゼ、GTP 結合蛋白質、および MAP キナーゼカスケード が必須であることを見出した。松本氏は、これらの分子以外に軸索再生が正常に進行しない多数の線虫変異体を同定しており、近いうちに切断された神経軸索の再生過程の全容が明らかにされるであろう。

以上、松本氏は酵母、線虫、ショウジョウバエをモデル生物として、遺伝学を基盤に細胞の増殖、発生・分化、がん化、炎症、神経系に関与する分子を同定し、さらにマウスを用いてその生理作用を解析してきた。松本氏が同定した分子は、シグナル伝達の中心的な分子として認められるばかりでなく、その変異がヒトの病気の原因となっていることも報告されている。松本氏のこれらの功績に対して、遺伝学会奨励賞、日産科学賞、木原記念財団学術賞、井上学術賞、持田記念学術賞、中日文化賞、上原賞、紫綬褒章などが授与されるとともに、国際的にも高く評価されている。以上より、松本邦弘氏を2019年度日本遺伝学会木原賞の受賞候補者として推薦するものである。

2019年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推薦者：小林 武彦（東京大学 定量生命科学研究所 教授）

受賞候補者：佐々木真理子（東京大学 定量生命科学研究所 助教）



・略歴

- 2001年 3月 大阪大学工学部応用自然工学科応用生物工学コース卒業
- 2004年 3月 大阪大学工学研究科応用生物工学科修士課程修了
- 2012年 3月 米国コーネル大学医科学大学院分子生物学科博士課程修了
(指導教員：メモリアルスローンケタリング癌センター、Scott Keeney 教授)
- 2012年 4月 国立遺伝学研究所・細胞遺伝研究部門（小林武彦教授）・日本学術振興会特別研究員（PD）
- 2015年 4月 東京大学分子細胞生物学研究所
ゲノム再生研究分野（小林武彦教授）・助教
- 2018年 4月 東京大学定量生命科学研究所
ゲノム再生研究分野（小林武彦教授）・助教

・遺伝学会における活動歴

- 2014年 日本遺伝学会第86回遺伝学会大会「ゲノム再編とゲノム安定化維持の分子メカニズム」にて講演
- 2016年 日本遺伝学会第88回大会 一般講演 Best Papers 賞受賞
- 2017年 日本遺伝学会第89回大会 一般講演
- 2018年 日本遺伝学会第90回大会 一般講演

・研究題目：（和文）DNA 複製阻害時の DNA 二本鎖切断修復機構に関する研究

（英文）Understanding the mechanisms that repair DNA double-strand breaks formed in response to DNA replication stress

・推薦理由

私は7年間、佐々木氏と共同研究をしており、同氏の研究能力、成果についてよく知る立場におります。つきましては、佐々木真理子氏を奨励賞に推薦いたします。

DNAには生物が生きていくための全ての情報が組み込まれていることから、DNAは安定に維持されなければなりません。しかし、DNAは細胞内で発生する活性酸素などの内的要因、また紫外線などの外的要因によっても絶えずダメージを受けています。中でもDNA二本鎖切断（DSB）は最も重篤なDNAダメージであり、誤って修復されるとゲノムの再編成が起り、癌やその他の疾患、さらには老化が促進されます。そのため細胞のDSB修復メカニズムを理解することは、生物が獲得した巧みな生き残り戦略を理解する上で非常に重要です。

DNA上にはDNAの傷、DNA結合タンパク質、転写装置、DNA二次構造など様々な複製の障害が存在し、そこで複製が停止するとDSBが生じやすくなります。そのため複製阻害時のDSB修復機構の解明は、ゲノムの維持機構を理解する上で重要です。しかし減数分裂期に起こるDSBはゲノム上の特定領域（ホットスポット）で起こるのに対して（Pan, Sasaki et al., Cell 2011）、DNA複製時の阻害はゲノム上のランダムな場所で起こることが多く、解析が困難です。また複製と関係なく起こるG1期やG2/M期のDSBは、部位特異的な制限酵素等を用いた実験系が確立されているのに対して、複製阻害時に生じるDSBを誘導する実験系は確立されていません。そのような理由で減数分裂期やG1期やG2/M期のDSBに比べ、DNA複製期の阻害によるDSBの修復機構については十分に理解されていませんでした。

出芽酵母のリボソームRNA遺伝子（rDNA）は、ゲノム上に100コピー以上存在する反復配列です。rDNA領域内には複製装置の進行を阻害する複製阻害点が存在し、複製阻害が高頻度で起こります。さらに、複製阻害の結果DSBが生じることも知られています。そしてその修復機構に関する研究は手付かずの状態でした。

候補者は、rDNAをモデル領域として複製阻害時のDSB修復機構の解明に取り組んできました。まず、rDNA内で複製阻害時に起こるDSBの修復過程を、DNAレベルで定量的に解析する実験系を確立しました。次にこの実験系を用いて、様々な因子のDSB修復への関与を調べた結果、複製阻害時に生じるDSBは、既知のDSB修復機構である相同組換えや非同源末端結合に依存しない、新規の経路によって修復されることを初めて発見しました。さらに複製阻害時のDSB修復特異的に作用する因子の同定にも成功しました。加えて、複製阻害時のDSBが誤って相同組換えによって修復されると、ゲノム再編成を引き起こしゲノムが不安定化することも明らかにしました。以上のことから、細胞は異なる細胞周期でそれぞれ異なるDSB修復経路を用いることによって、ゲノム安定性を維持することを明らかにしました。

これらの発見は、未知であった複製阻害時のDSB修復機構を明らかにする重要な第一歩であり、当該分野の進展に大きく貢献しています。さらに、本成果は国内外の研究者から非常に高い評価を受けており、日本遺伝学会第88回大会において Best

Papers 賞を受賞、2017年に学術論文誌に掲載 (Sasaki and Kobayashi, Molecular Cell 2017)、さらに2018年 Gordon Research Conference Genomic Instability において Best Poster 賞を受賞することができました。現在、複製阻害時の DSB 解析実験系を用いて、複製装置の構成因子、クロマチン構造制御因子、転写因子、異なる細胞環境など様々な因子の DSB 修復への関与を解析しており、複製阻害時の DSB 修復およびその制御機構の全容解明を目指しています。今後の研究から得られる成果は、細胞の癌化や老化などの原因の解明にも繋がると期待されます。

2019年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推薦者：一柳 健司（名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授）
受賞候補者：鈴木 孝幸（名古屋大学 大学院生命農学研究科 准教授）



・略 歴

学歴

1999年3月 慶應義塾大学 理工学部 応用化学科 卒業
2001年3月 慶應義塾大学大学院 理工学研究科 修士課程 修了
2004年3月 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 博士課程 修了

職歴

2003年4月1日 日本学術振興会特別研究員（DC2）
2004年4月1日 日本学術振興会特別研究員（PD）
2004年6月7日 米国ウィスコンシン大学 解剖学分野 博士研究員
2005年4月1日 日本学術振興会海外特別研究員
2007年4月1日 東北大学加齢医学研究所 助教
2008年10月1日 JST 独立行政法人科学技術振興機構 さきがけ研究者（兼任）
2010年10月1日 名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 助教
2016年4月1日 名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 講師
2018年4月1日 名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授
現在に至る

・遺伝学会における活動歴

2018年 第90回大会に非会員として参加し、活発に議論を行った。この参加を機に、本学会大会でのワークショップの企画を開始した。
2019年 遺伝学会に入会した。第91回大会にオーガナイザーとしてワークショップ企画を申請し、採択された。（ワークショップ名：脊椎動物の発生における遺伝子発現調節機構）

・研究題目：（和文）遺伝学・発生学を用いた四肢のパターン形成メカニズムの研究

（英文）Study of pattern formation of the tetrapod limb by genetics and developmental biology

・推薦理由

鈴木孝幸氏はこれまで発生学的、遺伝学的解析手法を用いて脊椎動物の四肢の形態形成メカニズムの解明に取り組んでこられました。2004年には、世界で初めて *Tbx2* と *Tbx3* という指の個性を決める遺伝子を発見し、小指と薬指の個性の違いが生み出される仕組みを突き止めました（Dev Cell, 2004）。さらに、2008年には、発生中の指間部に発現する BMP シグナルには量的な違いがあり、それによって転写因子である *Tbx2* と *Tbx3* の発現場所に違いが生じることで、小指と薬指を含む全ての指の個性が生み出されることを明らかにしました（PNAS, 2008）。その後、鈴木氏は指が形成される自脚領域を含む手足全体の3次元構築メカニズムを解明するために、当時の形態形成メカニズムの研究ではほとんど取り入れられていなかった、形態を定量的に解析する手法を構築することから研究を開始しました。その結果、統計学的手法を用いて器官全体の3Dの変形過程を定量、推定する手法を世界で初めて確立し（J Theo Biol, 2014）、手足の形態形成過程に必須な FGF や SHH といった分泌因子が形態形成過程に及ぼす役割を定量的に示しました（Development, 2015）。これらの一連の成果は、今日の定量生物学のさきがけとなるものであり、また3次元の形態形成過程を定量的に解析する手法を開発した論文は他に例がなく、特筆すべき成果と言えます。近年、鈴木氏は手足が発生する領域そのものを決めている遺伝学的メカニズムの研究に取り組み、発生初期において将来の仙椎となる領域に発現する分泌因子である *Gdf11* が隣接する将来後肢を形成する細胞となる側板中胚葉にも作用することによって、四足動物のどの種においても *Gdf11* 遺伝子の発現によって決定された仙椎の位置に後肢が形成されることを明らかにしました（Nature Eco Evo, 2017）。さらに、この研究結果から「へビは発生中に *Gdf11* の働くタイミングが非常に遅いために長い胴体を持つようになった」ことを示し、これまで多くの人々が興味を持っていた謎を初めて解き明かすことにも成功しました。本研究内容はNHKをはじめとするテレビ2社、新聞5社、また海外のメディアでも取り上げられ、社会に高いインパクトを与えました。

このように鈴木氏はこれまで脊椎動物における四肢の形態形成の研究領域において遺伝学、発生学を中心とした新たな手法・着眼点を導入して新しい研究分野を切り開いてこられました。鈴木氏のこれらの研究はこれまでに科学技術振興機構の“さきがけ”や、4つの新学術領域研究の公募研究に採択され、同氏の研究企画力とその実効力は高く評価されています。独自で一から開拓した研究は今まさに飛躍的な発展段階に入っており、今後の日本の発生遺伝学の発展を担う研究者の一人になると確信します。まだ本学会での活動実績は少ないのですが、本年度の福井大会でワークショップを企画しており、今後、さらに本学会の発展に寄与することが期待できます。

以上のことから、鈴木孝幸氏を日本遺伝学会奨励賞の候補者として推薦申し上げます。

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

山 口 喜 芳	226-8501	横浜市緑区長津田町4259- B1-504 東京工業大学生命理工学院相澤研究室
田 上 英 明	467-8501	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑11号館709号室 名古屋市立大学 大学院システム自然科学研究科
笠 原 浩 司	603-8555	世田谷区桜丘1丁目1-1 東京農業大学生命科学部分子微生物学科
辻 岳 志	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学工学研究科生物応用化学
荒 木 海 人	153-8902	目黒区駒場3丁目8-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
柳 田 正 義	603-8555	京都市北区上賀茂本山 京都産業大学生命科学研究科
井 上 拓 馬	910-8507	福井市文京3丁目9-1 国立福井大学工学研究科生物応用化学
伊 藤 凌 哉	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学工学部物質・生命化学科
根 尾 卓 磨	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学 工学研究科 生物応用化学専攻
金 田 真 奈	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学工学研究科生物応用化学専攻
野 坂 達 哉	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学工学部物質生命化学科
北 寛 貴	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学物質生命化学科
片 岡 研 介	444-8585	岡崎市明大寺町字西郷中38 基礎生物学研究所
林 直 之	920-1392	金沢市末町10 金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科
三 浦 恭 子	860-0811	熊本市中央区本荘2-2-1 熊本大学 大学院生命科学研究部
澤 保	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学大学院工学研究科生物応用化学専攻
安 田 江里奈	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学工学部物質生命化学科
上 田 純 平	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島 福井県立大学生物資源学部
中 村 有 香	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学
川 村 胡 依	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学
鈴 木 孝 幸	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科
木 村 萌	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学生物資源学部
速 水 小 夜	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学生物資源学部
野 方 美 歩	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学大学院工学研究科生物応用科学専攻
橋 本 佳 澄	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学生物資源学部
田 中 恵 美	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学生物資源学部

須賀 則之	191-8506	日野市程久保2丁目1-1明星大学29号間1110号 明星大学理工学部総合理工学科生命科学化学系
田中 克典	669-1337	三田市学園2-1 関西学院大学理工学部生命科学科
鈴木 留美子	411-8540	三島市谷田1111 遺伝学研究所
河野 慎吾	862-0973	熊本市中央区大江本町5-1 熊本大学薬学教育学部
徳下 貴一	700-8530	岡山市北区津島中1丁目1-1 岡山大学理学部生物学科
シュバイデル 玲雄		24-29 St Giles'Oxford OX1 3LB United Kingdom 長浜オックスフォード大学
石川 健	830-0011	福岡県久留米市旭町67番 久留米大学分子生命科学研究所細胞工学研究部門
佐賀 友弥	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学
ZDRAVKOVIC ALEKSANDAR	226-8503	神奈川県横浜市緑区長津田町4259 IWASAKI Laboratory Institute of Innovative Research Tokyo Institute of Technology
ESQUIVEL CHAVEZ ALFREDO	226-8503	神奈川県横浜市緑区長津田町4259 IWASAKI Laboratory Institute of Innovative Research Tokyo Institute of Technology
谷 時雄	860-8555	熊本市中央区黒髪2丁目39-1 熊本大学大学院先端科学研究部理学系生物科学分野
佐藤 壮一郎	606-8522	京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学大学院生命環境科学研究科
綾野 貴仁	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学工学研究科生物化学研究室
木本 紗希	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学大学院工学研究科生物応用化学専攻
松永 拓己	819-0395	福岡市西区大字元岡744番地 九州大学大学院・システム生命科学府
塚原 小百合	411-8540	三島市谷田1111実験研究棟6F 国立遺伝学研究所エビゲノム研究室
森 秀世	113-0033	文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
月井 一輝	060-0810	札幌市北区北十条西8丁目理学部2号館2-03 北海道大学総合化学院
山口 翔	630-0192	生駒市高山町8916-5 奈良先端科学技術大学院大学花発生分子遺伝学研究室
古井 佳奈	192-0364	八王子市南大沢1-1 8号館339室 首都大学東京大学院理学研究科生命科学専攻
藤近 敬子	192-0364	八王子市南大沢1-1 8号館418室 首都大学東京理学研究科生命科学専攻
青木 花織	192-0364	八王子市南大沢1-1 8号館417室 首都大学東京理学研究科生命科学専攻
清水 優紀	192-0364	東京都八王子市南大沢1丁目1 首都大学東京大学院理学研究科生命科学専攻
ミノヴィッチ あに香	192-0364	東京都八王子市南大沢1丁目1 首都大学東京理学研究科生命科学専攻
高畑 信也	060-0810	札幌市北区北十条西8丁目 北海道大学大学院理学研究院
佐藤 龍一	156-8502	東京都世田谷区桜丘1丁目1-113号館5階 東京農業大学細胞ゲノム生物学研究室
西村 浩平	565-0871	吹田市山田丘1-3 大阪大学大学院生命機能研究科
吉田 知史	169-8050	東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学国際学術院

三 善 賢 弥	812-8582	福岡市東区馬出3丁目1-1 九州大学薬学府分子生物薬学分野
出 口 恵 子	910-8507	福井市文京3丁目9-1 福井大学バイオミメティック工学研究室
山 本 大 賀	910-8507	福井県福井市文京3丁目9番1号 福井大学大学院工学研究科生物応用化学専攻
Nokuthula Nkonyane	606-8301	6-2 Yoshida Imidonocho, sakyo ku, kyoto shi 京都工芸繊維大学大学院工芸科学部応用生物専攻 応用ゲノミクス研究室
今 泉 結	113-0033	東京都文京区本郷7丁目3-1 東京大学大学院薬学系研究科
安心院 祥	153-0041	目黒区駒場3-8-1 15号館 315b 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻
大久保 めぐみ	060-8589	札幌市北区北九条西9丁目総合研究棟 W203 北海道大学大学院農学院遺伝子制御学研究室
中 川 卓 哉	910-1142	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学生物資源学研究科
山 中 布武己	910-1195	吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学生物資源学部生物資源学科
要 匡	157-8535	世田谷区大蔵2丁目10-1 国立成育医療研究センターゲノム医療研究部
登 田 隆	739-8530	東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院統合生命科学研究科

(連絡先自宅のため不掲載)

劉 宇, 今中千秋, 阿垣悠介, 沖住香織, 神谷綾音, 山岡莉沙, 長屋政弥, 田中元基, 坂本貴洋, 柴 広大, 吉岡和真, 喬 鋭, 秋山 優, 川上真奈美, 宮木至道, 佐藤洗太, 田中竣平, 江 湘吉, 蟹谷美有, 渡邊知輝, 濱永里菜, 田宮弘樹, 片野 亘, 蜂須賀亜季, 堀生 実, 水口真輔, 呉 耀慶, 稲田隆人, 藤崎花美, 平井真大, 工藤拓也, 山中千尋, 畑島 諒, 大美涼子, 金子隼也, 飯村秀明, 松本美歩, 片岡 修, 飛永汐里, 高島睦輝, 相澤美貴, 永井千駿, 白井 雄, 妙本耀駿, 大村 駿, 渡辺新也, 宮澤 栞, 条川 敦, 中川えみ, 大月都瑚

退 会

青野剛人, 小川直也, 勅使河原利香, 齋藤隆一, 吉川 学, 三浦麻衣, 岩寄 航, 初見真知子, 和多田江理子, 石川昌和, 船越昌史, 中島達郎, 野口泰徳, 磯部美優, 小林利紗, 多田 高, 高山和也, 川岸祐輝, 犬山愛莉香, 中山繁樹, 堀内 嵩, 白井 剛, 若生俊行, 内山 寛, 吉田雄介, 末次正幸, 土岐精一, 相澤康則, 関 優太, 村本伸彦, 藤川和男, 山口彦之, 浅野哲秀, 河野重行, 藤原哲郎, 河原太八, 宮城竜太郎, 堀 哲也, 川口 茜, 久保明弘, 朝倉史明, Lau Quintin, 牧野能士, 佐々木剛, 大月都瑚, 川村胡依, 神谷綾音, 中川えみ, 西澤優一郎, 嵯峨井知子, 山崎 晃

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 89	No. 6-11	(2019)
統計数理	Vol. 67	No. 1	(2019)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 49	No. 2-4	(2019)
CHINESE JOURNAL OF NATURE	Vol. 41	No. 1-3	(2019)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 25	No. 2-4	(2019)
NEWS OF NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES OF THE REPUBLIC OF KAZAKHSTAN	No. 5-6/No. 1-3		(2018/2019)

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務局を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業（退職者は前職）を明記して本会事務局に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。ただし、年会費滞納が当該年度を超えて1年以上におよぶものは会員資格を停止する。
- 1) 普通会員は年会費10,000円を納める。
 - 2) シニア普通会員は、定年退職して常勤職でないことを申し出た者とする。以降の年会費6,000円を納める。会長および評議員の被選挙権は有しない。
 - 3) シニア永年会員は、当学会に5年以上在籍する65歳以上の普通会員もしくはシニア普通会員が、初回のみ30,000円の永年会費を納入して資格変更でき、以降の会費および大会参加費の納入は免除される。会長および評議員の被選挙権は有しない。
 - 4) 学生会員は、在学証明書またはそれに代わるものを提出することで、初年度の年会費を免除し、2年目以降は3,000円を納める。
 - 5) 教育会員は、小・中・高等学校等の教育機関の教員を対象とし、年会費2,000円を前納する。会長および評議員の被選挙権は有しない。
 - 6) 機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を納める。
 - 7) 普通会員、シニア普通会員、学生会員および教育会員が休職および海外留学をする期間の休会を申し出たときは、その期間中の年会費を免除する。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員の称号、あるいは特別功労賞を授与することができる。
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回 Genes & Genetic Systems を発行する。印刷体は機関会員、賛助会員、および希望する普通会員と学生会員に配布する。印刷体の送付を希望しない普通会員と学生会員は年会費を500円減額する。特に希望がある場合を除き、シニア普通会員およびシニア永年会員には印刷体を送付しない。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員の選挙および他の議事を行い、講演会では普通会員、シニア会員、準会員および名誉会員の研究発表をする。
- 大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
- 1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
 - 2) 会長は、評議員が普通会員および学生会員の中から選出した複数の候補者から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙によって選出される。
 - 3) 評議員は、普通会員および学生会員の中から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙で選出される。
 - 4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
 - 5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
 - 6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
 - 7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
 - 8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
 - 9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
 - 10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。
- 付則 平成26年9月8日に第5条、第7条、第8条を改正し、平成29年1月1日より施行する。ただし、Genes & Genetic Systems の印刷体の送付を希望しない場合の会費減額は、平成30年4月1日より行う。
- 付則 平成29年9月12日に第5条を改正し、平成30年4月1日から施行する。
- 付則 平成31年3月8日に第12条を改正し、平成31年4月1日から施行する。
- 付則 令和1年9月12日に第1条、第3条、第4条、第5条、第6条、第7条、第10条を改正し、令和1年9月13日から施行する。

Genes & Genetic Systems 第94巻5号（付録） 2019年12月16日発行 非売品 発行者 小林 武彦 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5 番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800	学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 https://gsj3.org 電話・FAX 055-981-6736 振替口座 00890-1-217316 加入者名・日本遺伝学会
発行所 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内	国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えします。